

公開国際シンポジウム（2005年3月24日開催）のお知らせ

2050年低炭素社会シナリオに関する国際シンポジウム

- 脱温暖化シナリオ構築とその政策効果について -

Open Symposium “Low-Carbon Society Scenario toward 2050:
Scenario Development and its Implication for Policy Measures”

開催の趣旨：

平成16年度からスタートした地球環境研究総合推進費 戦略的研究開発プロジェクト「脱温暖化社会に向けた中長期的政策オプションの多面的かつ総合的な評価・予測・立案手法の確立に関する総合研究プロジェクト(2050年脱温暖化社会プロジェクト)」の一環として、脱温暖化研究を進めている各国の有識者を集めた国際会議を行います。

英国をはじめ各国では、京都議定書第二次約束期間後の国際政策として、低炭素社会実現に向けて2050年を見据えた大幅な温室効果ガス削減シナリオ(脱温暖化シナリオ)の構築およびそれに基づいた政策立案を進めています。本ワークショップでは2050年削減目標決定、2050年脱温暖化シナリオ開発、長期脱温暖化実現に向けた政策立案に携わっている研究者・政策決定者による発表を基にした議論を行い、日本および各国における2050年脱温暖化シナリオの方向性について考えます。

プログラム(予定)(2005年3月24日(木))

10:00-10:15 シンポジウム開催の辞：環境省 小島敏郎地球環境局長

セッション1 脱温暖化シナリオ構築の全体概要

10:15-10:30 シンポジウムの目的：国立環境研究所 西岡秀三プロジェクトリーダー

10:30-11:00 EUの長期気候政策：EC環境局 Dr. Artur Runge-Metzger

セッション2 長期温室効果ガス削減目標の設定方法について

11:00-11:10 長期目標検討に関する課題：東京工業大学 蟹江憲史

11:10-11:30 長期目標設定の周辺状況：ドイツ連邦環境庁 Dr. Martin Weiss

11:30-11:50 目標設定とステークホルダー・ダイアログ：
ハーバード大学 Dr. Marleen van de Kerkhof

11:50-12:30 ディスカッション：

討論者 オランダ国立公衆衛生環境研究所 Dr. Joop Oude Lohuis

討論者 地球環境戦略研究機関 Dr. Srinivasan Ancha

セッション3 2050年低炭素社会シナリオ開発とその政策効果

13:30-13:40 本セッションの議論のポイント：国立環境研究所 藤野純一

13:40-14:20 英国2050シナリオ：英国貿易産業省 Mr. Stephen Green

14:20-14:50 ドイツ2050シナリオ：ブッパータル研究所 Dr. Manfred Fischedick

14:50-15:20 フランス2050シナリオ：フランス持続的発展と国際関係研究所
Mr. Michel Colombier

15:20-15:40 コーヒーブレイク

15:40-16:10 オランダ2050シナリオ：蘭エネルギー研究センター Mr. Remko Ybema

16:10-16:30 日本2050シナリオ：国立環境研究所 藤野純一

16:30-17:20 パネルディスカッション

17:20-17:30 ワークショップのまとめ